

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程） 看護学領域 地域看護学分野	氏 名	BHANDARI YOG MAYA
審 査 委 員	主 査 林 智 子 副 査 竹 内 佐智恵 副 査 福 録 恵 子		
<p>（学位論文審査結果の要旨）</p> <p>論文題目：Male irresponsibility to contraceptive use and land cover classification in Nepal</p> <p>著者らは論文において以下の内容を述べている。</p> <p>避妊の効果は、単に妊娠を防ぐのみならず、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率を低下させることにも及ぶものである。これまでの研究では、避妊に対する男性の無責任さと避妊の実行には関連があることが明らかにされているが、男性の避妊に対する無責任さに寄与する個人要因、社会文化的要因、自然環境要因を明らかにした文献は少なく、特に自然環境の統合的指標である土地被覆分類との関連を調べた研究はみられない。本研究の目的は、男性の避妊に対する無責任さと自然環境要因の一つである土地被覆分類の関連を明らかにすることである。</p> <p>対象としたネパールは、熱帯雨林、田園地帯、極寒のヒマラヤ高地と自然環境の変域幅が極めて大きいため、土地被覆分類の研究に向いている地域である。また、研究手法として、ネパール人口保健調査（2016）と全球土地被覆データセット（2013）という異なる情報源データを統合した二次データ分析法を用いている。そして、オーバーレイ解析によって得られた土地被覆（11種類）を男性の個票データに連結させ、「避妊は女性の問題であり、男性は気に留める必要がない」への賛同者を「避妊に無責任な男性」とし、二項回帰モデルにあてはめ、年齢、教育年数、家財指標で調整した調整済有病率比（APR）を推定した。結果として、畑地は都市部に比べて有意に無責任な男性が少なく、落葉針葉林地は有意に無責任な男性が多かった。これらにより、男性の避妊に対する無責任さと土地被覆分類に関連があることが示された。</p> <p>本研究は、避妊に対する男性の否定的態度と自然環境との関連に着目したことはこれまでにない着想であり、ビックデータを種類の異なるデータソースから組み合わせる画期的な手法を示した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものだと認めた。</p>			